第24回関西スペイン語教授法ワークショップ（特別企画） 議事録（案）

★TADESKAは全体会と読書会を隔月で実施していますが、SGEL JAPÓN社さんからの申し入れで、7月の例会を、同社と共同の特別企画として行うことになりました。同社との共同企画は去年に引き続き2回目でしたが、今回は、東京の洋書フェアのため、SGEL本社より編集局長が来日されることになったこと、また、同社が日本人向けのスペイン語教科書の出版を企画していることから、同社が希望していたプレゼンに加え、TADESKA からの起案により、編集局長と参加者全員によるディスカッションを実施することにしました。

スペイン語教師たちは、よりよい授業、よりよい教授法、よりよい教科書を日々求めています。その背景として、教師としての本来の職業意識に加えて、近年大学をめぐる状況が大きく変化している中で、語学教育をどのように実践するかが大変重要な問題になっていることが挙げられます。一方、SGEL 社を初めとするスペインの教科書出版社は、スペイン政府の政策やセルバンテス協会東京支部の開設とあいまって、日本を中心とするアジアを新たな市場と捉えた積極的な戦略を展開しようとしています。

このような状況において、今回、SGEL 社と共同企画を実施し、同社から編集局長をお迎えし、またTADESKA 内外の多くのスペイン語教師の皆様（大学以外の方も含め）にご参加いただき、率直な意見交換が実現できたことは、ある意味で画期的と言えるのではないでしょうか。第1部のディスカッションに続く第2部では、昨年も好評だった Carlos Barroso 氏による、洋書を用いたプレゼンがありました。これについては、日本人講師から複数の好意的な感想が寄せられたことが特筆に価すると言えます。会全体としては、参加者からの反応はおおむね良好で、また、SGEL 本社のお二方も、この日の関西のイベント、および数日後に東京の GIDE（スペイン語教育研究会）の主催で開催された企画について、大変満足されていたとのことです（SGEL JAPÓN 蛭川さん談）。さらに、今回のイベントが、講師たちの出会いや再会、そして交流の場になったことも、有意義でした。

今回の企画によってスペイン語教育が新たな一歩を踏み出せたとすれば、TADESKA としては大変嬉しいことと考えます。ご出席の皆様には、至らない点も多々あったかと存じますが、学期末のご多忙な折にご来場いただきましたことを、この場を借りて深く御礼申し上げます。そして、TADESKA メンバーの皆様、お疲れ様でした。

1. 会名称

Encuentro de E/LE en Kansai

—Reunión especial de TADESKA con colaboración de SGEL—

2. 日時

2008年7月6日（日） 午後2時～午後5時30分（非公式セッション含む）

3. 場所

関西学院大学梅田キャンパス（ハブスクエア） 1408教室

4. Encuentro 出席者（合計41名）

SGEL 社(Sociedad General Española de Librería. S.A.)・・・3名

Sr. Don Carlos Gumpert Melgosa
Director 編集局長
Sr. Don Carlos Barroso García
Coordinador del Departamento de E/LE「スペイン語教授法部門」コーディネーター
Sra. Mari Hirukawa　蛭川真理
SGEL JAPÓN エスヘル・ハポン

一般参加者および世話役・・・38名

TADESKA メンバー　18名（うち4名世話役）（ネイティブ6名　　日本人12名）

SGEL 社経由の参加者　　20名（ネイティブ16名　日本人4名）

5. プログラム

（1）Primera parte: Discusión entre los asistentes sobre las características que debería reunir un texto para el nivel elemental de estudiantes japoneses en las universidades.（ディスカッション：日本の大学における初級スペイン語の教科書のあり方）

Cuestión 1: ¿Qué diferencias hay entre los manuales publicados en España y Japón con respecto al contexto y condiciones de aprendizaje, así como la motivación de los estudiantes? Asimismo, ¿cuáles son en realidad el contexto y condiciones de aprendizaje, así como la motivación de los
estudiantes de español como segunda lengua extranjera en las universidades japonesas

Cuestión 2:Teniendo como base la pregunta 1, ¿qué libro de texto considera necesario para la enseñanza de español en el futuro? ¿Cuáles son los objetivos de la enseñanza de español como segunda lengua extranjera en las universidades? ¿Qué piensa sobre la adquisición (acumulación) de conocimientos de un idioma y sobre la capacidad de usar un idioma? ¿Qué enfoque o syllabus considera necesario?

★当初の意向は、まず、日本のスペイン語教育の状況を確認し（議題1）、次に、今後のスペイン語教育の方向性を論じる（議題2）というものでした。が、実際には、議題1の途中から話し合いの内容が議題2に移ったので、議題2を中心の議論となりました。主にネイティブ講師の参加者と SGEL 編集局長との間で活発なやりとりがありました。この議論の内容については、後日別途、HP に掲載する予定です。

（2）Segunda Parte: Taller realizado por el Prof. Barroso: Aprender a través de la acción: Una propuesta global de construcción de la competencia comunicativa oral y escrita del estudiante. (Barroso 氏によるプレゼン「アクションを通して学ぶ ― スピーキング、ライティングのコミュニケーション能力の構築についての包括的な提案」)

（3）Tercera Parte (非公式セッション): Taller sobre "Español en marcha": una propuesta concreta para las clases universitarias en Japón y una muestra de clase

6. SGEL と TADESKA との関係について

TADESKA は、教師の互助団体であり、特定の企業の商業活動に協力するものではありません。今回は、この事について SGEL 社さんにご理解とご協力をいただいた上で企画、運営しました。

7. 運営スタッフ（敬称略）

SGEL JAPÓN 蛭川真理

TADESKA 柿原武史、中川マルガリータ、小川雅美、当日参加いただいた TADESKA のメンバー